

# ひらけコマ!

しずおかしりつとしょうかん  
静岡市立図書館

Vol . 141 (2020夏号)

なつごう

とくしゅう  
特集 ペンギン

えほん「365まいにちペンギン」

E シヨリ

ジャン＝リュック・フロマンタル / ぶん いしづ 石津ちひろ / やく

ジョエル・ジョリヴェ / え ぶんしんしゃ Bronz 新社



がつついたち あさ たつきゅうびん とど  
1月1日の朝、宅急便でペンギンが届  
きます。そして、よくじつ まいにち わ  
ペンギンがとど届くように。

さて、いったい なん 一体だれが何のために!?

がつ にち わめ  
12月31日、365羽目のペンギンが  
とど届いたそのひ よる あら なぞ じんぶつ  
日の夜に現われた謎の人物。

じんぶつ おく つづ りゆう  
その人物がペンギンを送り続けた理由  
には、ちきゅう す 地球に住むわたしたちへのメッセ  
ージが込められています。



ことわざクイズ! どんないみ?

はくひょう ふ  
「薄氷を踏むがごとし」

☆ きたえはいちばんさいごのページ

せかいいち  
「世界一おもしろいペンギンのひみつ」

うえだ かずおき かんしゅう ひこうきせいさくしょ せいさく  
上田 一生 / 監修 ペンギン飛行機製作所 / 製作

488.66

セ



しゅぽん  
サンマーク出版

あか 赤ちゃんを育てるのはパパ! なんと  
げつ なに た こそだ  
2か月も何も食べずに子育てをするそ  
うです。ペンギンの世界にも保育園が  
あつたり、ウンチのしかたが独特だっ  
たりと、ペンギン「ぺんた」の絵日記を  
よ 読みながら、おもしろく、たくましい  
ペンギンのひみつがわかります。

えほん「ペンギンホテル」

うしくほ りょうた さく かん  
牛窪 良太 / 作 アリス館

E ウシク



ようこそペンギンホテルへ! 赤いほ  
うしがステキなペンギンたちが、ぺた  
ぺたよちよちおもてなし。

すべてのおへやからは、オーシャン  
ビューがのぞめ、ディナーショーでは、  
シーフードを食べながらペンギンのタ  
ップダンスも見られます。くじらやサ  
ンタも訪れる、楽しいペンギンホテ  
ル。それは「ひろい うみの どこか と  
おく」にあるようです。



ほか 他にもこんな本があるよ!

えほん「ペンギンたいそう」

さいとう まき ふくいんかんしょてん  
齋藤 楓 / さく 福音館書店

E サイト

# 「カレーライス好きのペンギン」

おちあい けいこ さく ちょう しんた え かん  
落合 恵子 / 作 長 新太 / 絵 フレーベル館

あか 913

オチアイ



とうさんが作るカレーが大好きなリョオ。お母さんの帰りが遅くなったある日の晩、お父さんとカレーを食べていたら、コップの中で5ミリぐらいの小さなペンギンが泳いでいます。リョオが話しかけてみると、「カレーライスがたべたい」としゃべりだします。

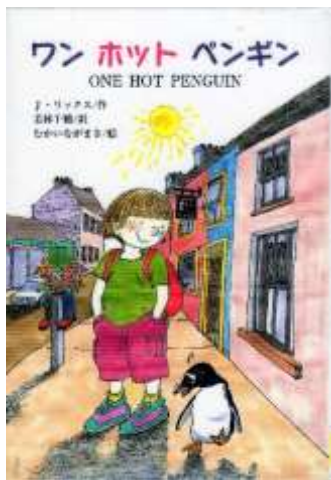
リョオの体験した、ちょっと不思議なものな物語です。

# 「ワン ホット ペンギン」

J. リックス / 作 わかばやし ちづる やく  
むかい ながまさ / 絵 ぶんけんしゅつぱん  
文研出版

きいろ 933

リックス



漁師の一族に生まれたフェランは魚が大嫌い。ある暑い夏の日、動物園に行ったフェランは、ひよんなことからペンギンのホイッスラーを家に連れ帰ってしまいます。涼しい場所を求めて南極に行きたいと言うホイッスラー。ペンギンとの奇妙な共同生活の末、彼らは大冒険へと踏み出すのでした。夏に読みたい一冊です。

# 「ながいながいペンギンの話」

いぬい とみこ / 作 やまだ きさろう え りろんしゃ  
山田 三郎 / 絵 理論社

あお 913

イヌイ

# ごまはかせ と ごま太くん どうやってしらべるの？



ごま太くん

こまったなー、こまったなー、はかせ。

南極の氷が溶けているって聞いたんだけど、  
なんでだろう？



ごまはかせ

ほう、それは地球温暖化のせいじゃな。  
このままでは地球が大変なことになるぞ。



そうなんだ！！

何か、ぼくにもできることがあるかなあ？



そんな時は、図書館に行って調べてみよう！！

まず、目的の本を見つけるためには、地球温暖化の本が  
どの分類にあてはまるかじゃが…。

5の分類の環境の棚に行ってください。

地球温暖化についての本があるはずじゃぞ。



ごみを減らすとか、節電するとか、ぼくにもできる  
ことがあるんだね。

これからは、環境にやさしい生活をしていくよ！

そうじゃ！みんなで地球を守って  
いかねばろう。



ひょうし  
表紙の  
こたえ

うすい氷の上を歩くような  
とても危ない状況にいること。